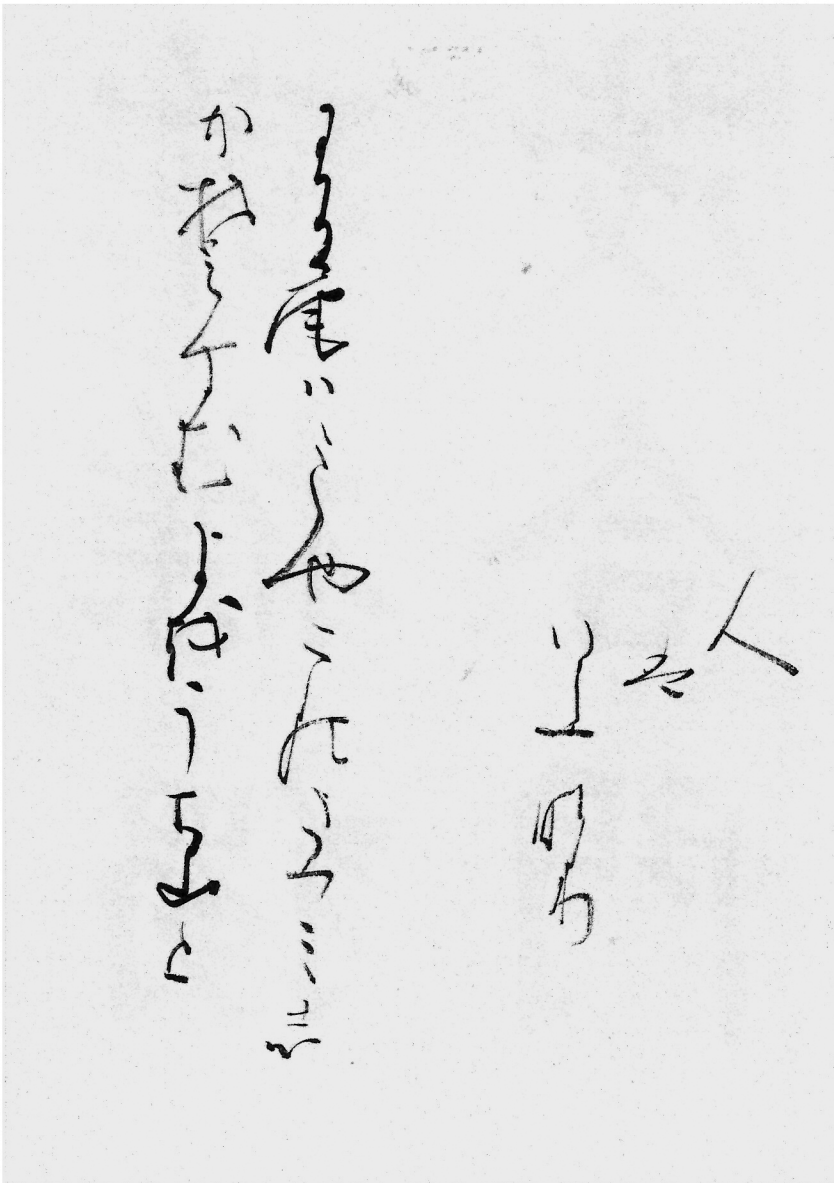


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (七)

わが庵^{いは}は都のたつみしかぞ住む 世^よをうち山と人はいふなり

喜撰法師^{きせんぼうし}



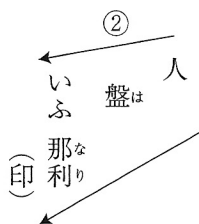
〈歌意〉

「私の庵は都の東南にあつて、このように心静かに住んでいる。しかし、人々は世の中をつらく思つて宇治に逃れているのだと言っているそうだ。」この歌は『古今集』（雑下九八三番）に出ています。

（喜撰法師）

九世紀の人で生没年未詳。確実な作品はこの一首のみとあります。

〈字母〉



① 王可庵ハミヤコ能多ツミ志
か楚すむよ越うち山と

左の二行の線の構成から右の小集団へ戻って完結する逆勝手で書かれています。この形式で書かれる場合の印は右側の最後に押します。

（中村青藍）

中村素堂先生の書

大島香菊様提供